

教科書の調査研究報告書

安芸高田市・山県教科用図書採択地区合同調査委員会

| 校種 | 教科 | 教科用図書目録に登録された教科書総数 | 本報告書の総ページ数 |
|-----|----|--------------------|------------|
| 小学校 | 国語 | 5 | 2 |

調査研究の観点及び各教科書の特徴

| 発行者 | 観点 | 基礎・基本の定着 | 主体的に学習に取り組む工夫 | 内容の構成・配列・分量 | 内容の表現・表記 | 言語活動の充実 |
|-----------|----|---|---|---|---|---|
| 2 東書 | | <p>○単元末に学習の重点となる「言葉の力」を明示し、重点的な学習により確実な習得を図ることができるようにしている。</p> <p>○「てびき」で、学習の具体的な視点と方法を例示している。また、「言葉の力」として、基本的な学習事項を明確に示している。さらに、「ひろがる」の中で、国語で学習したことを活用する際に大切なことを示している。</p> <p>○伝統的な文化に関する内容については、春夏秋冬ごとに「日本語のしらべ」を掲載している。</p> | <p>○第2学年～第6学年の冒頭に、課題解決的な学び方を示す「国語の学習を進めよう」と、一年間の学習を見通すロードマップ「どんな学習をするのかな」または、「1年間の見通しをもとう」を設け、自ら学び、課題を解決する能力を育成できるように、単元を課題解決的な学習過程にそって構造化し、学習の見通しや振り返りのための手だてを豊かに提示している。</p> <p>○学んだことを振り返り、その後の学習に生かすノート作りの具体例を「国語ノートの作り方」として示している。</p> | <p>○年間9単元。(1学年は5単元下巻のみ)</p> <p>○第1学年～第4学年までは上下巻の2冊構成である。</p> <p>○おおむね上巻では一つの領域に集中して学習する単元を配列し、下巻は各領域の学習を組み合わせ、総合的に展開する単元を配列している。</p> <p>○各学年の配当時数に照らし適切な単元数、内容の分量で構成している。</p> | <p>○巻末資料として説明文や物語、伝記など多数掲載している。</p> <p>○巻末に今年と前学年の言葉の力のまとめや活用例が「話す・聞く」「書く」「読む」に分けて示してあり、学年のつながりや違い(成長)を明らかにしている。</p> <p>○目次の後に、学習の進め方(つかむ、取り組む、振り返る、広げる)を示している。また、「話す・聞く」「書く」「読む」の3領域に分けてどんな学習をするのかを1年間の見通しがもてるように提示している。</p> | <p>○報告文では全学年のつながりを明記し、モデルとなる作品を1・2ページにわたって紹介している。</p> <p>○ほとんどの学年で「詩を読む活動」と「物語を書く活動」を系統的・計画的に位置づけている。</p> <p>○単元を通して取り組む言語活動がイメージできるように、単元名を工夫している。</p> |
| 11 学図 | | <p>○各単元の冒頭で目標を一文で示している。</p> <p>○「学習のてびき」では、学習の流れに沿って、発問に当たる投げかけの言葉がシンプルに並んでいる。読解のプロセス(全体把握→全体把握を経た深化)とそれを活用して表現する言語活動の3段階のステップを示している(全学年)。</p> <p>○「国語のカギ」で、各単元における学習のポイントを示している。</p> <p>○2学年で、線引きとぬき書きの仕方を示し、3学年で引用の仕方を説明するなど、よりよく読み、よりよく書くための手だてを系統的に掲載している。</p> <p>○「言葉のきまり」では、助詞や接続詞、主語と述語などの文法事項を繰り返しまとめている。</p> | <p>○「自分の脳を自分で育てる」や「ネコのひげ」や「東京スカイツリー」などを題材とした説明文や、地域行事や見学したこと、報告文を書く活動など、身近な話題や地域・社会に即した学習活動を設定している(全学年)。</p> <p>○各学年冒頭に、詩に続いて「学級作り」のページを設け、関わり合う学習集団の形成を意図している。(2学年以上)</p> <p>○「読むレッスン」としてプレ教材を設け、本教材との重ね読みや比べ読みをすることで、読みの技術と読みの姿勢のステップアップをねらっている。(中・高学年の説明文と5学年下巻の物語)</p> <p>○各学年下巻では言葉で伝えようという小単元を設定し、学年に応じたコミュニケーションの取り方を示している。</p> | <p>○年間12単元。(1学年は8単元、2学年は15単元)</p> <p>○上下巻の2冊構成である。</p> <p>○一つの領域に集中して学習する単元と、各領域の学習を組み合わせ、総合的に展開する単元を配列している。</p> <p>○発展的な内容の扱い方は、本編と関連させて、複数の読み物を掲載している。各学年1・2物語教材。</p> | <p>○1学年の国語上の教科書で、動物の顔を指でおさえながら開けるページがある。</p> <p>○巻末の資料に「国語のカギ」として「話す」「聞く」「読む」の観点に分けた学習のまとめがある。上下巻に記載があるが、上巻より下巻がより内容が詳細かつ高度になっている。特に「話す」ことを重点的に示している。</p> <p>○巻末に「保護者のみなさまへ」として、この教科書で目指す力の説明がある。</p> <p>○説明文は、説明をフォローする写真や絵を多数示している。</p> | <p>○物語「これであなたも作家になれる」(4学年下) 脚本「人物を生き生きとえがき出そう」(5学年下) 「ぼくの・私の物語作り」(6学年下) など、児童の興味関心を引くような題材を設定し、その書き方を詳しく説明している。</p> |
| 15 三省堂 | | <p>○各単元の冒頭に目標を一文で示している。</p> <p>○角書きで学習のねらいを示し、それに対応した学習過程を学習の手引きで具体的に示している(全学年)。また、「読むこと」の手引きでは、考える視点を吹き出しにして示している。「覚えておきましょう」の枠内に「筆者のものを見方をとらえる」を示している。</p> <p>○伝統と文化に関する内容では、5・6学年で、俳句や短歌を作って句会や発表会を行うという活動例を示している。</p> | <p>○3学年で国語辞典、4学年で漢字辞典の活用を取り上げている他社とは異なり、国語辞典(2学年～6学年)や漢字辞典の活用に関する教材(3学年以上)を系統的に配列している。</p> <p>○学年の冒頭に、「声に出して読もう(詩)」「お話を聞こう」「図書館へ行こう」の学習を系統的に設定(2学年以上)し、音声言語による学び合いや主体的な図書館活用を促している。</p> <p>○見開き2ページ「プラザ」では、絵や写真を手がかりに「話す・聞く」または「書く」活動を仕組んでいる(全学年)。</p> <p>○夏休み前の読書への誘いとして「あまんさんの部屋」を設定している(2学年以上)。</p> <p>○学年冒頭に「○学年で学習すること」を領域ごとに示し、一年間の学習を見通せるようにしている。(2学年以上)</p> | <p>○1学年5単元(下巻のみ)。2学年・6学年11単元。3～5学年10単元。</p> <p>○一教材一領域にねらいを焦点化して配列している。</p> <p>○1学年のみ上下巻の2冊構成。2学年以上では、全ての児童が行う学習と、個に応じた発展学習として使用する「学びを広げる」の2冊構成である。</p> <p>○発展的な内容の扱い方は、本編と関連させて、複数の読み物を掲載している。各学年一・二物語教材。(2～26ページ程度)</p> | <p>○巻末の既習漢字の配列が五十音順ではなく、学年ごとである。また、次の学年で学ぶ漢字も取り上げている。単元後に、新出漢字の書き順を示している。</p> <p>○巻末資料で、3領域に分けて単元で身につけておきたいことをまとめている。また、「学びを広げる」として、別冊にしている。</p> <p>○5学年の古文の場合、古文の隣に現代語訳を色つき文字で書いている。</p> | <p>○「はがき・手紙」の書き方について1学年から4学年で取り上げ繰り返し説明している。</p> <p>○全領域の教材の最後に「わたしの本だな」のコーナーを設けて、学習が日常の読書活動へつながるようにしている。</p> |

| | | | | | |
|------------------|---|---|---|---|--|
| <p>17 教出</p> | <p>○各単元の冒頭に目標を示し、より具体的な目標も併記している。 ○読む教材の手引きでは、読みの視点を示し、吹き出しに例を示している。 ○「ここが大事」の枠内に押さえるべきポイントを示している。 ○伝統と文化に関する内容では、教材を鑑賞するだけでなく、児童が短歌や俳句を作る活動を取り入れている。5年生では、俳句や短歌の作り方を示し、句会の開き方も示している。</p> | <p>○書くことにおいて、目的と相手を意識した書き方を工夫するように示している。5年生では書いた文章を文集にまとめる編集の仕方を示している。 ○第一単元の物語教材において、読み取った内容をもとに書く活動へと結び付けている。(2学年以上) ○「話す・聞く」「書く」の単元では、学習の進め方を示し、図式化している。</p> | <p>○1学年10単元(下巻のみ)、2学年16単元、3・4学年17単元、5学年14単元、6学年15単元。 ○上下巻の2冊構成。 ○1つの領域に集中して学習する単元と各領域の学習を組み合わせる総合的に学習する単元を配列している。 ○発展的な内容の扱いは、本編と関連させて複数の読み物を掲載している。(5・6学年。6学年は、「中学生になるみなさんへ」と題して巻末に司馬遼太郎の文章を掲載している。) ○どの学年も最後に「国語の学習 これまでこれから」と称して、学習を振り返り次年度への意欲をもたせるようにしている。</p> | <p>○冒頭の詩の表記は文字が大きい。1・2学年の文字も大きく表記されている。 ○巻末の「付録」に「この本で学ぶこと」を簡潔に示している。また、各学年で身につけたい学び方(横書きの書き方やアンケートの取り方等)や言葉(「言葉の木」「言葉の星座」)を掲載している。 ○巻末に「漢字を学ぼう」と表記し、新しく学習する漢字と前学年で学習した漢字を掲載している。</p> | <p>○「書く」単元では、題材を多く取り上げ、参考となる例文や書き方の手順を説明している。 ○「読む」単元の終わりに「本を読もう」のコーナーを設けたり、各学年上下巻末の「付録」に「○年生で読みたい本」を示したりして、学習を日常の読書活動へ結びつけようとしている。 ○1学年から4学年まで図書館の活用の仕方について示し、4学年上巻では司書の仕事について紹介している。</p> |
| <p>38 光村</p> | <p>○各単元の冒頭に単元目標を示している。リード文に具体的な目標を示し、この単元で「何を」「どのように」学習するかを示している。 ○「読むこと」の手引きでは、読みの視点と言語活動の手順を示している。知識・技能の整理と確認のための「たいせつ」を位置づけている。 ○伝統と文化に関する内容は、「声に出して読む」「聞いて楽しむ」ことを中心に、単元数・ページ数とも豊富に掲載している。また、2学年以上では、「季節の言葉」として、季節にまつわる言葉や韻文を絵や写真を添えて紹介している。全学年に、民話や昔話を聞いて楽しむ教材を位置づけている。</p> | <p>○定評のある文学作品、現代社会や自然等に目を向ける文章など、関心をもって読む教材が充実している。 ○「読むこと」単元の手引きが、全体を見通して取り組めるよう、見開きで構成している。単元でつきたい力につながる読みの課題を設定している。下段に言語活動の手順を示している。 ○1学期説明文単元は、見開きで文章構成を学ぶ第1教材と、学んだことを活用して読む第2教材のセット構成である。 ○「話すこと・聞くこと」単元は、3つのステップ、「書くこと」単元は、4つのステップで「活動の流れ」を示し、活動の重点を色を変えて示している。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の活動のゴールのイメージを、発表例や作例で具体的に示している。単元末に設けた「ふりかえろう・いかそう」には、学んだことを振り返り、他教科や日常に広げていく観点を示している。</p> | <p>○第1学年から第4学年までは、上下巻の2冊構成、第5・6学年は、1冊である。 ○一つの領域に集中して学習する単元と、各領域の学習を組み合わせ、総合的に展開する単元を配列している。 ○年間総単元数は、第1学年10単元(下巻のみ)、第2学年13単元、第3・4学年11単元、第5・6学年9単元。 ○発展的な内容の扱いは、本編と関連させて、複数の読み物を掲載している。各学年1ないし2教材。</p> | <p>○説明文では、写真や図表、グラフなど様々な資料を掲載している。 ○単元末尾に振り返りポイントとチェック欄がある。 ○巻末の資料として、説明文、物語、詩、和歌など多数掲載している。 ○目次のあとに、1年間を見通せるよう3領域1事項に分けて、単元や活動を示している。</p> | <p>○学習指導要領で示された言語活動例(手紙・報告文・物語・詩・随筆等)を、低・中・高それぞれの段階でバランスよく配置している。 ○全学年に「本は友達」という色着きページを設け、さまざまな言語活動につながる学校図書館等の活用法を示している</p> |